

2014年夏季手当交渉

第2回交渉報告!

中央本部は5月22日の14時から「2014年度夏季手当第2回交渉」を行いました。今回は、会社の収入動向について説明を受けました。

《会社》

【鉄道事業部門】

- ① 4月の収入動向は、対計画99.8%（コンテナ100.4%、車扱94.6%）である。対前年では100%超えである。
- ② 消費増税後の反動として4月は約2億円の減を想定していたが、それを上回る反動要素があった。しかし、反動減は当初の想定より縮減する見込みである。
- ③ インセンティブの付与の継続や積載率向上等の増収施策を引き続き行う。低積載率の輸送区間のテコ入れや、中長距離（400km圏内）がトラックから鉄道にシフトしており、異なるモーダルシフトを荷主や利用運送事業者とセールスしていく。
- ④ 輸送障害に対する対策も評価を受け、今後も利用運送事業者との連携を強化していく。また、物流政策アドバイザー会議も始動し、モーダルシフトへの動きも強まっている。

【関連事業部門】

- ① 昨年度は、5億円の収支改善策を盛り込んだ計画に対して、10月期改定計画228億円を上回る232億円の収益を達成した。今年度は、既存物件の賃料維持と賃貸事業の新規開発や分譲事業を推進し、計画の達成に向け取り組んでいく。
- ② 関連事業部門は減収傾向にあるが、新たな土地の生み出しをはじめ、収入拡大施策の推進と経費節減に努めていく。

《本部》

- ① あらゆる施策の達成は、職場の組合員が担うことによって実現される。「人」への投資が重要となる。
- ② 中期経営計画では、鉄道事業部門の黒字化を目指しているが、その前提は「労使で汗をかく」ことであり、会社は努力に報いるべき。
- ③ 組合員の生活は、消費増税や物価上昇で厳しさを増している。
- ④ 支払い能力は十分にあると認識できる。25年度決算に対する還元と、モチベーション向上に向けて誠意ある決断を求める。

《会社》

- ①平成25年度決算、収入状況を踏まえ、重々分かっている。組合員の努力とモチベーションを上げなければならないと認識している。
- ②動力費などの経費増が見込まれる中で、収支全体を見ての判断となる。
- ③会社の考え方については、今後の交渉で明らかにしていく。

青年部から、「営業施策は分かったが、一方ではダイヤ改正で、目玉商品として新設した列車で極端に積載率が低いものがある。原因は分析しているのか。経営責任だ。会社は責任を持って経営を本気で進めていくべきだ！」と会社の経営姿勢について声をぶつけました。

次回第3回交渉は、5月30日です。

**私たちばかりに汗をかかせる姿勢を許さない！
会社は私たちの苦勞と努力に報いよ！！**

JR貨物労組青年部